

○ 気候変動への適応（住宅）

気象庁が発表した寒候期（12-2月）予報では、今年はやや平年並みの寒さとのことです。気候変動による影響で冬季も暖冬化の傾向にありますが、この冬は冬型の気圧配置が強まって、寒気が流れ込み寒い時期があります。

このような気候変動に適応し快適に暮らすには、住宅の住みやすさが重要になります。従来の日本の建築では風通しを重視し、自然換気による空調の効率化を図っていました。しかし、エアコンなど冷暖房機器を多用する現代では、住宅の断熱性能が求められており、それを上げることで快適性と省エネが期待できます。

そこで、国は2022年に住宅の断熱性能基準を見直し、等級4までの基準をさらに上位の等級7までを新設しました。さらに、地域ごとに等級の基準値を定めました。

断熱性能基準
区分別の外皮平均熱貫流率（UA値*1）[W/(m²・K)]

等級	地域区分						
	1	2	3	4	5	6	7
7	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26
6	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46
5	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60
4	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87
3	0.54	0.54	1.04	1.25	1.54	1.54	1.81
2	0.72	0.72	1.21	1.47	1.67	1.67	2.35
1*2	-	-	-	-	-	-	-
代表地点	北海道	青森	長野	新潟	愛知	福岡	

*1 UA値は数値が小さいほど省エネ性能が高いことを示す。
*2 断熱等級1の基準は、昭和55年の旧省エネ基準に満たないものため、断熱基準が設定されていない。
(国土交通省 省エネ性能表示制度資料を基に作成)

新築住宅に関しては、2025年から断熱等級4以上が義務付けられ、2030年には断熱等級5が最低基準等級になる予定です。

また、愛知県と(公財)科学技術交流財団が実施している産学行政連携の研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクトIV期」では、名古屋工業大学の藤正^{ふじ まさよし}教授、玄々^{げんげん}化学工業(株)、(株)サンゲツらの研究チームが、ナノシリカ中空粒子*を用いて、断熱性と耐擦傷性を兼ね備えた壁装材(壁紙)及び樹脂ガラス用の塗料を開発しました。

今後これらの塗料を用いた内装材等への利用により、断熱で環境に優しく、年中快適な高断熱住宅の実現を目指しています。

* 内部に空孔を持つ粒子径が約100ナノメートルのシリカ粒子
詳細はWebページをご覧ください。

(<https://www.pref.aichi.jp/press-release/20240918.html>)



○ 気候変動への適応（服装）

県では軽装勤務の通年化を決定し、11月1日から実施しています。気候変動が夏、冬に関係なく極端化する中で、職員が気候に合わせて快適で働きやすいと感じる服装を自ら選択することで、公務効率の向上や行政サービスの一層の充実につながることを期待しています。

県民の皆さんにおかれましても、身近な工夫により気候変動に適応していきましょう。

環境調査センター 企画情報部
愛知県気候変動適応センター
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら
<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>

